

台風による早期落葉がキウイフルーツ樹に及ぼす影響と翌年の着花確保対策

【要約】 台風により9月下旬に早期落葉したキウイフルーツ樹は、落葉程度が強いほど、また収穫期が遅いほど次年度の着花数が少なくなる。早期落葉樹は翌年の着花確保のため、通常より10日程度早く収穫し、充実した結果母枝を強めに切り返す。

園芸研究所・果樹部・落葉果樹研究室

連絡先

092-922-4111

部会名	園 芸	専門	栽 培	対象	果樹類	分類	普及
-----	-----	----	-----	----	-----	----	----

【背景・ねらい】

生育期間が長いキウイフルーツは、収穫までに台風に遭遇する機会が多い。平成3年9月27日に福岡県を縦断した大型台風19号のキウイフルーツへの被害は甚大で、落葉及び落果が激しく、再発芽を誘発した。このような台風19号被害樹の落葉程度及び収穫時期と果実品質、翌年の着花数の関係を調査し、台風等による収穫前の早期落葉がキウイフルーツの樹体に及ぼす影響を明らかにし、早期落葉樹の着花確保対策技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

- ①台風により9月下旬に早期落葉したハイワードの翌年の着花数は、落葉程度が強いほど少なく、100%落葉樹は全く着花しない。しかし、落葉程度と翌年の発芽率の間には明かな関係はみられない(表1)。
- ②9月下旬に早期落葉したハイワードの果実品質は、収穫時の果実には収穫時期の違いによる差は認められないが、追熟果では収穫時期が遅いほど糖度が高くなる(データ略)。また、翌年の着花数は収穫時期が遅くなると少なくなる(表2)。
- ③9月下旬に早期落葉した樹は、せん定時に結果母枝を切り返すと発芽率が高く、着花数が多くなる。また、着花数は結果母枝基部から発生した新梢ほど多い(表3、図1)。
- ④9月下旬の落葉は翌年の着花数への影響が大きいため、50%以上落葉した樹は着花確保のため通常より10日程度早めに収穫する。

【成果の活用面・留意点】

- ①9月下旬に早期落葉したキウイフルーツ(ハイワード)樹については当調査結果が適用できるが、9月下旬以前の早期落葉では再発芽が多くなるため適用できない。
- ②早期落葉樹のせん定は着花確保のため着花数が多い基部の新梢の発生を促すよう、充実した結果母枝を強めに切り返す。

[具体的データ]

表1 台風による前年の早期落葉の程度と発芽及び着花 (平成4年)

前年の落葉程度	発芽率 %	1 結果母枝当たり			
		母枝長 cm	芽数 芽	発芽数 芽	着花数 花
50%落葉	59.0	71.0	6.3	3.7	9.8
90%落葉	56.2	46.4	4.9	2.8	2.3
100%落葉	60.8	32.3	3.8	2.3	0

注) ①試験場内ハイワードの落葉被害樹を各区1樹供試。
②平成3年9月27日の台風19号で落葉、調査は平成4年4月

表2 台風による早期落葉樹の収穫時期と次年度の着花状況 (平成4年)

収穫時期	1 樹当たり				1 結果母枝当たり		
	母枝数 本	芽数 芽	発芽率 %	着花数 花	芽数 芽	発芽数 芽	着花数 花
10月11日	187	1,158	44.1	116	6.1	2.7	0.6
10月21日	221	1,320	44.6	249	6.0	2.7	1.0
10月31日	242	1,355	44.8	40	5.6	2.5	0.2

注) ①台風により100%落葉した八女郡立花町の10年生ハイワードを供試。
②落葉：平成3年9月、収穫：平成3年10月、調査：平成4年4月

表3 結果母枝先端の切り返しの有無と結果母枝の形状及び着花状況 (平成4年)

結果母枝 切り返し の有無	結果	着花母	1 結果母枝当たり			
	母枝数 本	枝割合 %	母枝長 cm	芽数 芽	発芽率 %	着花数 花
有	119	27.7	62.2	6.6	48.4	0.7
無	92	10.9	45.0	5.0	37.8	0.2

注) ① 台風により100%落葉した八女郡立花町の10年生ハイワードを供試。

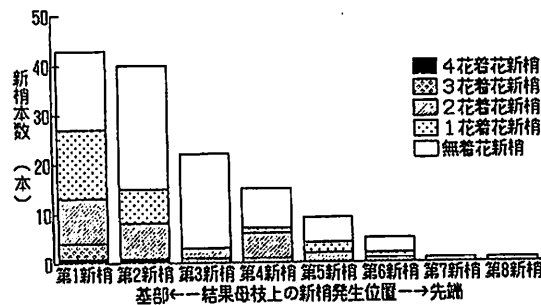


図1 結果母枝上の新梢位置と新梢当たり着花数

[その他]

研究課題名：台風による早期落葉がキウイフルーツの果実品質及び着花に及ぼす影響
 予算区分：経常
 研究期間：平成4年度 (平成3～4年)
 研究担当者：林 公彦、矩野周二、吉永文浩
 発表論文等：園芸学会九州支部研究集録第1号